

精華町教育委員会議事録

平成30年（第6回）

1 開 会 平成30年6月26日(火) 午後3時00分
閉 会 平成30年6月26日(火) 午後4時00分

2 出席委員 太田教育長 松本委員 新司委員
岡島委員 松下委員

3 欠席委員 なし

4 出席事務局職員

岩崎教育部長 片山総括指導主事
竹島学校教育課長 石崎生涯学習課長
上原学校教育課係長

5 傍聴者 1名

6 議事の概要

(1) 開会

教育長から第6回教育委員会の開会を宣言。

(2) 前回議事録について

教育部長から平成30年第5回教育委員会の議事録について説明。

【採 決】

・全員承認

(3) 教育長報告事項

報告を2点。まず1点目は、先日発生した大阪府の北部を震源とする地震について。

6月18日の朝に震度6弱の地震が発生し、精華町においても、水道水の濁水、いわゆる赤水が出る被害が発生した。教育施設については、むくのきセンターの天井の化粧板が少しずれるという被害があったものの、それ以外に被害は報告されていない。学校施設に被害はなかった。既に登校

していた児童生徒については屋外に集め、状況が落ちついてから校舎の中に入れるといった措置をとるとともに、登校途中の児童生徒に対する見守りを強化した。幸いなことに人的な被害はなかった。

教育委員会としては、直ちに情報収集に努めるとともに、赤水の出た精北小学校については給食の調理等に支障があるため、学校へ水を運搬することで給食は予定どおり実施できた。また、緊急に校長会議を開催し、情報共有及び余震に対する対応策について協議し、強い余震の発生する可能性が高い1週間の間については、登校するまでの間に震度5以上の揺れがあった場合は自宅待機とすることとし、教育長と学校長の連名で保護者に対して文書を配布した。

なお、高槻市でブロック塀の倒壊によって女兒が圧死するという事故が発生したことから、早急に学校施設の点検を実施したところ、ブロック塀はなかった。通学路については、現在点検を行っており、その結果に基づいて適切な措置をとる必要があると考えている。

2点目は、総合教育会議について。

今年度の第1回目の総合教育会議を7月27日の金曜日に開催する予定である。今後、町長部局との調整を行うが、毎年1回目については、昨年度中の生徒指導や進路の状況について教育委員会から報告しており、今回についても報告予定である。

また、今回の地震についても報告を行い、地震に際しての通学路の安全確保や学童との連携などの問題、町長部局においては保育所の子どもの安全確保など問題もあることから、意見交換をする必要があると考えている。

(4) 事務局からの諸報告

教 育 部 長 1 6月会議の内容について

6月会議の一般質問において、6人の方から教育部に関する質問があった。

1人目として、昨年度に策定した精華町学校給食基本構想に関連して、学校給食の運営合理化の考え方について質問いただき、これまでの考え方とおり、民間委託なども見据えた中で中学校給食実施に向けて取り組む旨、答弁した。

2人目は、町立図書館に関して、読書通帳の導入や図書館の

開館時間の延長などについて質問いただき、読書通帳については次年度以降の導入に向けての取り組み状況と、図書館の開館時間については、現状の人員体制での延長は考えていないこと、図書館全般についてのアンケートを実施する旨の答弁をした。

3人目は、ハラスメントに関する教育委員会の取り組みについて質問いただき、各学校での人権教育や道徳教育の取り組み実施状況について答弁した。

4人目は、英語教育について質問いただき、本町では早くから英語教育の導入を見据えた中で取り組みを進めてきていること、小・中学校での取り組み状況と今後の取り組みなどについて答弁した。

5人目は、定期監査等の指摘事項に関し、各学校における公金外現金の取り扱いなどについて質問いただき、これまでの手続上における改善状況などについて答弁をした。

6人目は、学校薬剤師の役割と薬物乱用防止教育の実施などについて質問いただき、役割については法及びその施行規則に規定されており、児童生徒の健康相談や保健指導、学校環境衛生基準に基づいた検査等の実施について答弁し、薬物乱用防止教育の実施については、各小中学校において実施している内容について答弁をした。

教 育 部 長 2 木津川河川敷多目的広場の一部返還について

先の6月14開催された総務教育常任委員会において、教育部から報告させていただいた内容である。

平成25年度から平成29年度までの指定管理期間に、指定管理対象施設の一つであった木津川河川敷多目的広場には、Aコート、Bコート、Cコートの3つがあった。

そのうちBコートでは平成25年度から、Cコートに至っては平成17年度から利用者がいない状況が続いていることに加え、昨年台風21号の影響により、Bコートの木津川沿いの一部のり面が崩壊し、利用のためには復旧工事が必要となった。施設の復旧による費用対効果と今後の活用を含め指定管理者と

相談の上、国と協議を行ったところ、平成29年度末に施設を返還するのであれば、原形復旧までの工事を要しないという許可をいただいた。これを受けて町敷設の側溝の撤去工事等を年度内に実施し、返還許可をいただき、手続きが全て完了したことから、木津川河川敷多目的広場の一部を返還するものである。

現在までのところ返還した部分の利用申込等はないが、相談があった場合については、利用できない旨を説明した上で、Aコートあるいはスポーツ交流広場を案内する予定である。

今後については、当該内容について町のホームページ等で一定期間、周知を図る考えである。なお、昨年度末に返還許可をいただいていたことから、Bコート及びCコートについては、今回の指定管理対象施設からは除いている。

教育部長 3 大阪府北部を震源とする地震について

教育長報告のとおり、学校施設についての被害はない。ブロック塀については、学校と教育委員会で二重に確認を行い、学校施設内にはないことを確認している。

次に、先週中に緊急対応として各小学校の通学路の安全確認を実施し、通学路におけるブロック塀の状況を確認した。現在確認した範囲では、5小学校区で合計6箇所について、ブロック塀の傾きやひび割れなどが確認できた。既に学校には通知済みであり、各学校においても当該箇所について確認済みである。

今後の対応としては、精華町と木津警察署との間で開催している安全・安心まちづくり会議の枠組みの中で、通学路安全対策に関する部会を立ち上げ、その中で情報共有、あるいは地域課によるパトロールの依頼をしていきたいと考えている。ブロック塀等の安全対策については、改めて、児童生徒に注意喚起するとともに、地域の皆さまの見守り強化をお願いしたい。

また、京都大学防災研究所の専門家の意見を聴きたいと考えており、昨日、危機管理部門を通じてメール等で依頼したところである。

確認したい内容としては大きく6点ある。まず、子どもたち

の通学を考え、小学校低学年の子どもたちが地震時に歩ける震度について意見を聴きたい。次に、一部小学校の通学路には歩道橋があることから、地震時に歩道橋に上っている場合にはどう対応すべきかについて確認したい。さらに、通学途上での注意事項について。例えばブロック塀、自動販売機、カーブミラー等々の倒壊する可能性があるものにはどのように対応すべきか。また、通学に同伴していただいているPTAの方やスクールヘルパーなどボランティアの方については、地震発生時にどのような対応をすべきかについても意見を聴きたい。それと、地震発生時に学校にいる場合の対処方法として、学校では防災計画を作成し、避難訓練も毎年実施しているが、それ以外に良い対策等があれば教えていただきたいと考えている。最後に、下校中に地震が発生した場合について、学校に近い場合や自宅に近い場合など、様々なケースが考えられるが、最も適切な対応方法について、意見を聴きたいと考えている

以上の6点に加え、本町では現在、地震発生時における休校の基準がないことから、震度を判断基準とした休校や自宅待機の判断についても意見を聴き、基準作成の参考としたい。

総括指導主事 1 生徒指導報告について

(1) 小学校

5月の問題事象はなし。

(2) 中学校

5月の問題事象は9件。生徒間によるものは謝罪及び指導等が終わっており、他の事案についても指導は終わっている。

また、5月から6月にかけて、学校がいじめとして指導した事象が2件報告されている。いずれについても謝罪を終えて、現在は見守りの状態になっている。

(3) 不登校について

4月と比べて大きな変化はない。

ただ、5月に入って休みが増えている子どもがいたり、体調不良による病休対応から不登校として指導を始めたという件

が出てきている。一方で、不登校の傾向にありながら、修学旅行には参加できた生徒もあり、個々の状況に応じて適宜学校で指導を行っている。

総括指導主事 2 平成30年度相楽中学校陸上競技大会について

6月1日、太陽が丘で行われた。特に男子と女子の200メートルでは大会新記録で優勝している。各競技の5位以上については、6月16日開催の山城地方の大会に出場し、ここでも男子と女子の200メートルで優勝している。特に女子200メートルについては、25秒19の大会新記録であった。今後、京都府大会に男女合わせて6名、リレーチームも女子が1チーム進出している。

総括指導主事 3 京都府学力診断テストについて

京都府と精華町を比較すると、小学校4年生、中学校1年生ともに京都府を上回っているが、昨年度と比べるとその差が縮まっている。ただ、今年度の中学校1年生は平成27年度実施時の小学校4年生であるが、小学校4年生時の国語はプラス1.0、算数はマイナス0.7であったが、中学校1年生になって国語ではプラス3.5、数学ではプラス2.1であり、とても上がっている。これは、小学校の4年生から6年生の間に学校で丁寧に指導していただいた結果であると考えている。

総括指導主事 4 精華町教職員夏季研修会について

8月1日、全小中学校全教職員を対象に行う。今年度については、中学校の給食導入も見据えて食育をテーマとし、京都府立大学の松井元子先生に講演いただく。第2部では、精華町産業医の谷川先生から、よりよい人間関係を構築するためのコミュニケーションスキルについて講演いただく予定である。

学校教育課長 1 昼食時間に関するアンケート調査について

8月1日の研修でも講演予定であり、昨年度の精華町学校給

食基本構想策定に際しても尽力いただいた、京都府立大学の松井元子先生の協力を得て、小学校と中学校に昼食時間に関するアンケートを実施する。これは、基本構想策定の際に、中学校給食実施に向けて昼食時間をどう確保するかが大きな課題として出ていたことから、現在の給食の実態や中学校のお弁当の状況について調査するとともに、指導する側の先生に向けてのアンケートについても実施し、まずは実態の把握を考えている。

今後は、松井先生と学校にも訪問し、小学校の給食の様子や中学校の弁当の様子を参観し、実際に観察しての実態把握についても努めたいと考えている。これらを総合的に勘案し、中学校給食実施に向けての時間確保の参考としていきたい。アンケートの集計結果については、また機会を設けて報告をさせていただく。

学校教育課長 2 食育だよりについて

給食を実施していない中学校の生徒・保護者に対し食育だよりを作成し情報発信している。小学校も中学校も全ての児童・生徒、保護者の方に食育の大切さを伝えるため、レシピも載せて啓発している。

生涯学習課長 1 子ども議会について

先般、学校からの質問内容が出揃った。今後、委員各位への開催案内とともに質問内容についても紹介させていただく予定であり、ぜひとも傍聴に来ていただければと考えている。

【委員の意見等】

岡 島 委 員 地震に関して、聖マリア幼稚園では、すでに早い時間帯のバスが出発しており、子どもを乗せて戻ってきたが、すぐに休園となり、もう一度バスが回って子どもたちを帰すとともに、バス通園以外の子どもについても保護者に迎えに来ていただくなどして休園となった。

新 司 委 員 地震の翌日に木津川市の幼稚園に行く機会があった。休園で

はなかったが、登園しても不安定になって泣いたり、親から一日お休みしますとの連絡があったりという状況があったようだ。

松本委員 問題事象に関連して、昨日、精華町青少年健全育成協議会総会に出席したが、その中で木津警察署から、子どものSNSやツイッターの利用が中学校で大きな問題になるケースが発生していると聞いた。生徒指導報告において、SNSの利用に関連する内容があったが、現在のところSNS等の利用により子どもが大きな被害を受けた事例等はないとの認識で良いか。

総括指導主事 現在のところは発生していない。

松下委員 地震について、24時間いつ起こるかわからず、どのような場合に発生したらどう対応すべきか、様々なシミュレーションが必要である。授業中の場合には学校が、家にいれば家族が対応できるが、登下校時の対応が最も難しいと思う。

地震に限らず防犯に関しても同様に思うが、今後は、学校と地域の協働がポイントになってくると思う。最近では、定年退職した人も多くおり、何かが起こった時に学校から各地域の役員に連絡が入れば、地域として対応することができるのではないかと思う。

ブロック塀に関しては、精華町の学校にはないとのことで安心している。通学路に関しては、私有地であることから対応が難しく、教育委員会だけではなく、町長部局も含めての対応が必要ではないか。

次に学力診断テストの関係について、府平均を100と考えると、本町の現在の中学1年生の国語が105.2%。この生徒たちが小学校4年生の時、本町では101.6%。小学校4年生から6年生までの3年間で約3.4%分アップしていることになる。算数については、本町では平成27年度の小学校4年生が府平均に対して99.0%。これが平成30年度の中学1年生では103.4%となり、4.4%分も上がっている。いずれも素晴らしい結果である。

非常に良い結果が出ているので、小学校3年間でどのような教育をして学力が向上したということについて、ぜひ啓発する

とともに各学校の取り組みを学校間で参考にしてもらいたい。

今年の4月にも中学校3年生と小学校6年生の全国学力テストが実施された。これも同様に比較することで、1年間の指導内容とその効果を分析することが可能であり、小学校4年生から中学校3年生までの6年間を見て、指導していただければと思う。

最後に、先日、寿大学に参加させていただき、非常に良い体験ができた。私の住んでいる地域では、60歳以上の元気な人がどんどん増えており、今後何をしようか迷っている人も多い。その中で、寿大学や社会福祉協議会との関連などは非常に大切であり、今後ますますニーズが増えてくると思うので、ぜひ充実した中身をお願いしたい。

松本委員 学力診断テストに関連して、平成27年度の小学校4年生が平成30年度に中学校1年生となり、算数で府平均からマイナス0.7点だったのが、プラス2.1点になっている。今の時代にこれだけ学力が上がることは凄いことであり、先生方の指導の賜物であると思う。

各学校の主体的な特色のある取り組みをクローズアップし、私たちにも紹介していただきたいし、その様な情報を学校間で共有し、他の学校の取り組みを参考にすることで町内の全学校が伸びるようにして広げてもらいたいと思う。

松下委員 全国学力診断テストについて、これまで基礎と活用に分かれていた問題が来年度から一本化される。主体的・対話的で深い学びの視点など様々なことがテストにも関係してくると思われる。そのような変化が、今の流れに沿った指導との間で問題として出てくる可能性があると思う。

太田教育長 精華町では、元々は国の診断テストが始まった際に分析を始めた。各小中学校から教務主任に集まってもらい、学力充実に関する委員会を設置している。全国調査では、途中で手法が変化してきたため、現在は京都府の診断テストについて経年比較のデータを蓄積し、綿密に分析して指導に繋げている。

これまでは経年比較が中心であったが、松下委員の指摘され

た視点での分析も考えていく必要がある。また、国ではこの間、学力調査に紆余曲折があったが、今後は一本化していくとのことであり、それも踏まえて分析方法について考えたい。

松 下 委 員 全国と府の学力テストでは、どちらも町内各学校、京都府、府内各市町村の平均点がデータとして出ることから、そこにポイントを置けば、小4と小6、中1、中2、中3、この5回分について、町と府、府内市町村との平均点での比較データにより分析が可能である。

太田教育長 今の意見も参考にして検討していきたい。

新 司 委 員 地震に関連して。各小学校区におけるブロック塀の危険箇所について報告いただいた。私も含めスクールヘルパー同士では、通学路の危険箇所の話をするところがあるが、私たちが認識している箇所の1つなのか、別の箇所なのか、地域として知っておく必要があるのではないかと思う。

学校教育課長 各箇所については個人宅となるので、広く周知することは控えているが、学校に対しては緊急点検の結果を情報提供している。ただし、すぐに通学路を変更することは難しいため、その箇所を通る際にはブロック塀から離れて歩くようにという指導や、地域の見守りの方等にも情報提供するよう伝えている。

また、今回の地震では、見守りの方も犠牲になっておられることから、スクールヘルパーに登録されている方に対し、見守り時の自分自身の安全確保と、子どもたちへの引き続きの安全指導等と、ブロック塀も含めた通学路での危険箇所の情報提供について依頼したところである。

教 育 部 長 先ほども申し上げたが、警察にも情報提供をしており、警察では交番を所管する地域課へ情報を伝えた中で、重点的にパトロールをしていただけるとのことである。

今後、警察と町の関係課による会議を設ける予定であるが、その中でも改めてパトロールや情報共有の依頼をしていきたい。

岡 島 委 員 地震について、小学生の息子の登校班を見送った後で、中学生の息子がまだ家にいる時に地震が発生した。中学生の息子を守ることで精一杯で、登校した子どもを見に行くこともで

きなかったが、その日はシルバー人材センターの方が一緒に登校する日だったので、大丈夫だろうと思った。息子から聞いた話では、学校の少し手前で地震が発生し、先生の誘導でそのまま校庭に集合したとのことだった。避難訓練で練習していることもあり、校庭に並ぶのはスムーズにできたようだった。

今回の地震では、学校からのメール配信が本当にありがたかった。地震発生後、すぐに中学校から、一旦自宅待機とするメールがあり、その後も自宅待機しているかの確認メールや全員の無事が確認できたこと、登校再開のメールもきた。

小学校についても、全員無事に登校しているとのメールがあり、親としては無事を知ることでもとても安心した。

それから、中学生の陸上大会について、皆頑張っていると感じた。今の時期は頑張るほどタイムが上がったり、記録が伸びたりするので楽しいと思う。怪我にだけは注意して、楽しみながら頑張ってもらいたい。

太田教育長　　今の話を聞き、避難訓練を繰り返すことの重要性を再認識した。また、今回の地震ではメールが威力を発揮しており、これまでも多くの家庭で登録してもらっていたが、今回のことで登録者が増えたようだ。もちろんメール登録していない家庭にも、学校では電話等により連絡をしている。

(5) 後援関係

5月から6月に受け付けた教育委員会後援事業の報告は、総数13件、学校教育課関係は0件、生涯学習課関係が13件。13件全て社会教育係関係となっている。

(6) 7月の行事予定

(7) 閉会

教育長が第6回教育委員会の閉会を宣言。